

令和3年度 滋賀県「健康いきいき21」地域・職域連携推進会議議事概要

*新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ書面開催

【開催状況】

事務局に（別紙）協議シートの提出〆切	2月18日（金）
事務局から意見集約後の共有	2月28日（月）
最終、ご意見の確認〆切	3月9日（水）
協議概要の共有	

【議題】

1. 「健康いきいき21-健康しが推進プラン」の進捗状況について
2. 働き盛り世代の健康づくりの取組について
3. 循環器病対策の推進強化について
4. コロナ禍を踏まえた今後の健康づくりについて
5. 「健康しが」取組状況の報告について
6. 議題1～5の協議内容から今後に向けての提案、情報提供について

【協議概要】

議題1 「健康いきいき21-健康しが推進プラン」の進捗状況について

- （委員） 評価指標が有るものについては進捗状況確認が出来て良いが、無いものについては以後どの様にするのか。
（事務局） 今回の評価は、あくまでも R3.12 現在での進捗管理上の評価であるため評価指標が揃っていない状況。計画の最終評価時点（R5）では、すべての項目を評価する指標が揃う予定。
- （委員） コロナの感染もあり、自らの健康管理は進んでいるように思われる。コロナ後も定着するように取り組むことが大切。
- （委員） 「食品中の食塩や脂肪の低減等に取り組む飲食店の登録数の増加」の評価が「改善」とあるが、累積数である以上、年々登録数は増加するもの。率と違い目標に対してどの程度になれば改善なのか不明瞭に思う。
（事務局） 「累積数による目標値」の設定については、次期計画策定時、協議させていただく。
- （委員） 「75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少」の評価において、「改善」と「改善傾向」の表記があるが違いは？
（事務局） 改善状況の評価については、「改善」に統一する。

- (委員) 「健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている団体の割合の増加」について、実績は割合でなく実数になっているが正しいのか？
(事務局) 「健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている団体の割合の増加」については、基準値、現状値とも実数となっていることから、資料記載のとおりとさせていただく。次期計画策定時、協議させていただきたい。
- (委員) 健康しが推進プランの取組成果は一定の評価ができると思う。なお、悪化のうち「受動喫煙対策の実施割合、糖尿病有病者の増加抑制」は今後の取組課題と言える。
(事務局) 「受動喫煙対策の実施割合」については、評価指標としていた「医療機能情報提供制度」により「医療ネット滋賀」に入力されている情報に基づき評価しているが、①介護施設内等の診療所も対象となり十分な理解の上での入力がされていないこと、②改正健康増進法に十分対応した設問となっていない現状がある。今後、精度の高い情報提供となるようアプローチしていきたい。
- (委員) 共創会議を活かして関係団体が横断的に連携して取り組めると良い。健康無関心層などに、各個人にフィットした健康づくりが取り込めるように情報発信、展開が出来るが良い。
(事務局) 更なる健康寿命の延伸に向けて、引き続き県民の健康づくりにつながる活動を「健康しが」共創会議に参画する団体とともに進めてまいりたい。
- (委員) 令和5年度の次期計画策定の際には、国保のデータヘルス計画や介護保険の計画など連携した計画作りが必要になってくるのではないかと。
(事務局) 次期計画策定時、関係各計画との連携をテーマとして取り上げていきたい。
- (委員) 喫煙について職場やその他の多くの人が利用する場所（駅近く、バス停、商業施設等）の状況についても啓発、評価が進むと良いと考える。
(事務局) 事業所に向けては、労働局とも協力しながら啓発に取り組んでいるところ。市町の「路上喫煙防止条例」、「受動喫煙防止条例」のエリア外の場所における受動喫煙防止対策は、継続した啓発が必要だと認識しております。「ここではたばこを吸わないでね」ステッカー等を有効に活用いただきたい。
- (委員) コロナ禍の影響を考慮して評価結果を解釈する必要あり。
(事務局) 衛生統計上、どのように影響があるかはまだ分からない状況である。R5計画最終評価時には、研究結果等を踏まえ整理して評価ができると思われる。

議題2 働き盛り世代の健康づくりの取組について

- (委員) 26もの動画作成大変だったと思うが、再生回数が低くて残念である。次年度も引き続き配信予定とのことだが、もっと広く活用してもらえるように、さらなるアナウンスをお願いしたい。
- (委員) 弊方の利用者アンケート結果では、研修ニーズとして、メンタルヘルス対策やカウンセリング手法への要望が多いことから、次年度「健康経営セミナー」動画を作成するに当たっては、その辺りを充実させるとよいと考えます。
- (委員) 企業経営者に「健康経営」の必要性を理解してもらうために、こうあるべきを強調するだけでなく、企業活動にこのようにメリットがあったという事例を収集し広く広報してはどうか。
- (委員) 各種取組が情報共有されて共同・連携事業化できれば一機関で実施する限界・断念も解消されて幅広く事業が展開できると思う。健康経営セミナー動画は短時間で簡潔にまとめられていて、仕事の合間や休憩時間に視聴ができるので良かった。今後も続けて配信して頂けるようお願いしたい。
- (委員) 新型コロナウイルス感染症の影響で、ICTを活用した保健事業は充実してきていると思うが、健康無関心層にいかに関心を持っていくのかが医療保険者においては一番悩んでいることかと思う。各団体様々な取り組みをされているが、連携してオール滋賀の取組が出来ればいいのではと思う。
- (委員) 「健康経営セミナー」の動画は都合の良い時間帯に、関心のある内容を視聴出来てよかった。今後も Web 開催を継続していただきたい。
- (委員) 動画配信は短時間で手軽に視聴できるので今後も進めてはどうか。
- (委員) 職場（店舗）に乳がん検診バス配車を試みた研究の結果、配車した店舗では乳がん受診率が大きく向上した。胃がんリスク検診や大腸がん検診も、定健と同時に実施することにより、受検率は80%を超えているので、いかに受けやすくするかがポイントだと考えられる。メリットは被保険者に限られてしまうのが現状。県民全体のがん検診向上のためには「わざわざ機関と日程を選び予約して受けに行く」というハードルを低くすることが有用ではないかと考える。たとえば、リソースが限られる中小企業でも、一定の受診者数が見込めるなら職場に検診バスを配車するような施策。

議題3 循環器病対策の推進強化について

- (委員) 禁煙にかかる医療費の半額負担や、特定検診受診率や特定保健指導の向上などの受診者に2,000円程度の仮称健康増進クーポンを配るなど、お得感があると、行動変容する県民もいる。

- (委員) 滋賀県も地域によって年齢層も違うし、食事文化も異なっている。また、食塩摂取量や野菜摂取量も地域差があるので、滋賀の健康・栄養マップ調査を参考にしながら今後の普及啓発を展開する必要がある。
- (委員) 治療と仕事の両立支援の切り口で、周知啓発等の連携を図りたい。
- (委員) 運動不足の傾向があると思われるが、今の状況ではやむを得ない。
- (委員) 喫煙対策についてうまく取り組まれている事例があれば情報提供をお願いしたい。
- (委員) 循環器病という名称は一般に馴染みにくいかも。脳卒中や心筋梗塞／狭心症という疾患名を強調した予防啓発のほうがいいのでは。
- (事務局) わかりやすく伝わるように「脳卒中、心臓病」という言葉を検討する。

議題4 コロナ禍を踏まえた今後の健康づくりについて

- (委員) 健診受診率の維持、向上が大切である。
- (委員) コロナ禍、ウイズコロナの時代では、特に県民の運動不足が懸念される。メタボリックシンドロームやサルコペニアの予防の為、滋賀県内の運動公園などで BIWA - TEKU を活用した体を動かす取り組みの実施を各団体と協議してはどうか。
- (委員) コロナ禍だから取り組めた健康づくりの成功事例の募集や「禁煙の成功体験」を募集してはどうか。「循環器病対策の推進計画」の具体的な施策にも通じると思う。
- (委員) コロナ禍では人との交わりが少なくなり、メンタルヘルスに与える影響が心配される。
- (委員) 家族（被扶養者）の健康づくりは重要であるが進まない状況にあり、コロナ禍により Web 化が進み、在宅であれば参加できる方への取り組みは関係団体間で協働ができれば事業を広められる。特に子育てや介護をしている女性層に家庭で運動・食育・健康講座など Web セミナー参加を呼びかけるなど、出来るものがあるのではないか。
- (委員) コロナ禍の健康への影響について評価していくことが必要ではと感じている。外出自粛等によるフレイルや体重の増加など短期的に影響を受けるものと、血圧など検査データの有所見率は病気の発症など中長期的に影響を受けるものに分けられると思う。短期的、中長期な項目に分けて、健康指標の良化につながるもの、悪化につながるものを分けて評価していく必要があると感じている。
- (事務局) どのような影響があるのかを見極めるには、もう少し時間がかかるようである。最終評価時点では、国の研究結果等を踏まえ、ご指摘のような評価の実施を目指したいと考えている。

- (委員) Web を活用した取組だけでは、メンタル面の健康課題が大きくなっている状況があり、さらなる手立てが必要と感じている。
- (委員) コロナ対策と同時に実施を検討してはどうか(例：ワクチン接種と検診を同時実施など)。Web/ICT/DXを活用した事業を基本として、それぞれの事業を健康しがポータルサイトに集約。
- (事務局) 「健康しが」ポータルサイトは、健康づくりに関連するイベント等を一元的に、分かりやすく情報発信することを目的としていることから、関係する取組等を積極的にキャッチし、発信していきたい。また、各団体様からの情報提供もぜひお願いしたい。

議題5 「健康しが」取組状況の報告について

- (委員) コロナ禍だからできることも多いと思う。例えば、リモート配信による健康体操など、県内各地の県民をつなぐのもよいのではないか。
- (事務局) 長引くコロナ禍で健康への関心が改めて高まっている状況を好機と捉え、オンラインを活用したヨガ体験など、様々な団体が提供している。コロナ下にあっても取り組むことができる健康づくりコンテンツを情報発信してまいりたい。
- (委員) 「女性」の健康感を高める啓発とあるが、具体的な取り組みをお願いしたい。例えば千葉県では女性の健康づくりのための相談窓口、専用外来の設置等をされている。
- (事務局) 来年度は、SNSを活用するなど県民参加型の取組を、企業等のアイデア、取組を参考にするなどして進めてまいりたい。
- (委員) 「滋賀らしい健康」曼陀羅シートを活用して活動を進めていきたい。
- (委員) 今は企業も従業員も健康面に留意している。いろいろな取組が効果を発することに期待できる。継続して取り組むことが必要。
- (委員) 「健康しが」の取組、共創会議の事業や「ヘルシートリップしが」をもっと広く広報してほしい。滋賀の魅力・スポットを紹介して健康イベントを組合わせる事業が実施できれば協働していきたい。
- (事務局) 県民の皆様に健康づくりのきっかけとなる情報を「届ける」ことができるよう、ポータルサイトやSNSの活用、また共創会議にご参画いただいている団体様のご協力を得ながら、発信してまいりたい。
- (委員) 「ひとづくり」「まちづくり」が大切だと思います。共通の目標に向かって取り組める「ひとづくり」「まちづくり」を期待します。今は、関心がないと情報をキャッチできない状況だと思います。どのように情報を発信していくのか検討が必要かと思います。
- (事務局) 県民の皆様に情報を「届ける」ことができるよう、ポータルサイトやSN

Sの活用、また共創会議にご参画いただいている団体様のご協力を得ながら、情報発信してまいりたい。

- (委員) 子育て中の方や農業等従事者も同様かと想像するので、仕事でヘトヘトの人にどのような運動を促すのか、仕事内の運動も評価できるとよいのではないかと、といった議論も必要かもしれない。
- (事務局) 例えば、県スポーツ課では、家事や育児、通勤など、日常生活において体を動かす機会も「運動・スポーツ」であることの啓発を行っており、引き続き、こうした啓発を企業等に向けて発信してまいりたい。また、良質な睡眠に繋がるマッサージやストレッチ等を併せて紹介していきたい。

議題6 議題1～5の協議内容から今後に向けての提案、情報提供について

●健康に関心が向きづらい層への働きかけについて

- (委員) 滋賀県観光大使の西川貴教さん、滋賀県広報大使の伊藤みきさん、スポーツ大使の皆さんに兼任をお願いする。西川さんは現在もボディビルを続けておられ、日頃の健康管理についても新型コロナウイルス感染症予防に関しても人一倍気を遣っておられることと思います。三日月知事の人柄を生かし、サポーターとして、様々な健康イベントに参加していただく。
- (委員) ・初めて健診を受ける加入者に対して、誕生日の前月に健診受診のお知らせを送付し、健診に関心を持ってもらうための手法として今年度より実施している。
・子育て世代にスポットを当てるために、県内の小中学生に配布される「防災ハンドブック」に広告を掲載した。問題を掲載し答えはQRコードを見ていただくよう仕掛けて、子供と一緒に親にも答えを見てもらう試み。
・健康経営の支援として、企業向けの健康教室(対面・WEB)を行っているが、メンタルヘルスの「セルフケア」や「ラインによるケア」の講座が好評。個人のみならず、企業全体で取り組むメンタルヘルス対策として注目されているのではないかと。
- (委員) 身体活動・運動では、子供の身体活動量の減少が確認されている。これはコロナ禍での外出自粛や接種を伴う運動スポーツの回避が原因の1つではないかと考えられる。最近の文献においても、この傾向は子供に限らず全世代で報告されています。屋外でも3密を避けることができる運動やZOOMなどのツールを用いて家の中でもできる遊びなどの提案ができればと思う。

●連携して「オール滋賀」の取組について

- (委員) 各団体ごとの取り組みではなく、県全体の横断的な取り組みとして「健康

いきいき週間（仮）」とか「健康しがの日（仮）」など、県民に健康であることの幸せを共感できるような取り組みができれば幸いである。

●メンタル面の健康課題が大きくなっている現状の中での更なる手立てについて

➤ （委員） 「健康いきいき21」AI 相談窓口の設置

若年者や子育て世代は ICT や SNS 等の利用が多く気軽に利用できる。

例えば、<https://ubie.app> （ユビーAI 受診相談）

以上